

# えべつ未来づくりビジョン

<第7次江別市総合計画>

## 答 申 書

令和5（2023）年7月21日

江別市行政審議会

令和5年7月21日

江別市長  
後藤 好 人 様

江別市行政審議会  
会長 明 神 知

### 第7次江別市総合計画の答申について

令和4年8月29日付け4政策第127号で諮問を受けた、第7次江別市総合計画について、本審議会において慎重に審議を重ねた結果、将来都市像として掲げられた「幸せが未来へつづくまち えべつ」の実現に向けて取り組む方向性を示すものとして適切であると認めますので、下記事項に十分留意されるよう、意見を付して答申します。

なお、審議を通して多くの委員から意見や提案などがありましたので、今後、市政運営に十分配慮されるよう希望します。

### 記

#### 第1 総論

- 1 九つから成る「まちづくり政策」は、それぞれが未来のまちづくりに重要な分野別の方針であるため、全ての政策が良好な成果を上げる必要があることから、広い視点に立って関係する政策を一体的に取り組むことにより、相乗効果を高めながら、将来都市像「幸せが未来へつづくまち えべつ」の実現に向けたまちづくりを進められたい。
- 2 少子高齢化や核家族化の進行が見込まれる中、持続可能なまちを実現するためには、市民と行政が持つお互いの情報を共有し、連携を図ることが重要であることから、人と人とのつながりや支え合いを大切にしたい、市民が主体となる協働のまちづくりを進められたい。
- 3 江別市は、豊かな自然環境のみならず、充実した交通ネットワークが広がり、多くの若者が集う教育機関が複数立地するなど、様々な魅力が調和した未来の可能性があふれるまちであることから、これらの特色や優位性を生かしながら、他の地域資源との関わりを通じて新たな強みを創出するなど、人が集い、行き交う、にぎわいのあるまちの実現に向けた取組を進められたい。
- 4 少子高齢化が進み、人口が減少する流れにあっても、誰もが心豊かに住み続けられる魅力的なまちであり続けるために、市民の生活に関わる様々な分野において、デジタル技術を活用して暮らしの利便性を高めるとともに、行政や経済、地域活動などを変革する施策を推進するなど、江別市がイノベーションに挑戦し続け、時代を切りひらくための取組を進められたい。

## 第2 各論（まちづくり政策）

No.	まちづくり政策	意見
1	1 自然・環境 (1) -①	「脱炭素社会の実現」について、一人ひとりが正しい知識を身に付け、できることから実践することが重要であるため、地球環境にやさしい取組などの情報提供や議論の機会の提供を進めるとともに、市民自らが実践する環境づくりに努められたい。
2	1 自然・環境 (1) -②	「水と緑の保全」について、江別市には野幌森林公園などの豊かな自然があることから、多くの方に利用され、自然を守り生かしていく機運が醸成されるよう、市内外への積極的な情報発信に努めるとともに、江別市の自然や地域資源を有効活用した取組を検討されたい。
3	2 産業 (1) -②	「地産地消の推進」について、生産者である農業者だけでなく、消費者にとっても地産地消の意識と取組が重要であるため、市民が農業と触れ合う機会の提供をはじめ、生産者と消費者を結び付ける取組を検討されたい。
4	2 産業 (1) -③	「持続可能な農村環境づくり」について、デジタル技術を活用したスマート農業は、導入費用が高額であり、普及が課題とされているが、生産性の向上や省力化のみならず、脱炭素社会の実現にもつながることから、デジタルを活用して持続可能な農業に取り組む全農業者に対する支援を検討されたい。
5	2 産業 (2)	「商工業の振興」について、江別市の強みを生かした食関連産業の振興をはじめ、製造業やサービス業におけるデジタル技術の活用や、大学・研究機関との連携などにより、新たな価値を創り出す取組を支援するほか、江別市の可能性を見据えた企業誘致を積極的に行うなど、持続可能で活力のあるまちの実現に向けた取組を進められたい。
6	2 産業 (3)	「観光による産業の振興」について、まちの魅力をさらに高めるため、江別市の地域資源である「食」と「農」に、歴史あるれんがや四つの大学が立地する優位性を結び付けるなど、「食」や「農」を強みとする他自治体との差別化を図るための取組を検討されたい。
7	3 福祉・保健・医療 (1) -①	「地域福祉活動の推進」について、少子高齢化や核家族化、高齢世帯の増加などによって、地域福祉の課題が複雑・多様化しているため、今後は地域におけるつながりがさらに重要になることから、地域全体で支え合い、助け合うまちづくりを進められたい。

No.	まちづくり政策	意見
8	4 安全・安心 (2) -②	「防災意識の向上」について、日常生活における何気ない行動が、防災や減災につながっていることなど、身近な取組や心掛けなどの情報提供に努め、地域住民自らが防災活動を行う環境を整備するなど、誰一人取り残さないよう、あらゆる手段を用いた情報発信に取り組まれない。
9	5 都市生活 (2) -③	「デジタル技術の活用」について、いつまでも暮らしやすく、便利で快適なまちを実現するため、行政の各種手続きをはじめ、江別市の歴史や文化の情報発信など、様々な分野においてデジタル化を進めるとともに、市民の日常生活を支える公共交通や医療分野などにおいても、江別市の特徴を生かした先進的な取組を検討されたい。
10	6 子育て・教育 (1)	「子育て環境の充実」について、子育て環境をより良くするためには、子育て世帯が抱える経済的な負担の軽減のほか、地域全体で子どもを見守り、交流する取組や、親子がいきいきと遊び、過ごせる場の提供など、あらゆる取組が考えられることから、子どもをはじめ、保護者や子育て支援に携わる方の声を広く聴き取り、寄り添いながら有効な取組を検討されたい。
11	7 生涯学習・文化・スポーツ (3) -①	「スポーツ機会の充実」について、市民が、スポーツを通じてプロや海外代表のチームなどで活躍するトップアスリートと交流するほか、一生懸命に取り組む個人や団体に加え、特色のある活動を取り上げてPRするなど、江別市をスポーツで盛り上げ、元気で活気を感じられるまちづくりに努められたい。
12	8 協働・共生 (1) -③	「地域コミュニティ活動の推進と相互連携」について、今後、少子高齢化や人口減少に伴い、地域活動の必要性がますます高まることから、地域に暮らす、さまざまな年代や立場の方との対話を通じて気軽に参加できる仕組みをつくるなど、子どもから高齢者まで、全世代が地域でつながり、活動することができる環境づくりの支援に努められたい。
13	9 計画推進 (2) -②	「広報・情報発信の充実」について、情報発信は、あらゆる取組の基本となることから、全ての政策において重要な事項として位置付け、行政情報を確実に市民に伝えるとともに、市民の声を様々な手法で聴き取り、お互いが持つ情報を生かしたまちづくりを進められたい。

### 第3 各論（えべつ未来戦略）

No.	えべつ未来戦略	意見
1	戦略の推進	「えべつ未来戦略」を構成する五つの戦略は、いずれも将来都市像である「幸せが未来へつづくまち えべつ」の実現につながる重要なものであるため、戦略の実践に当たっては、実効性のあるものとなるよう、他自治体にはない江別市ならではの特色や優位性を生かしながら、積極的な取組を検討されたい。
2	指標	五つの戦略で掲げる「数値目標」について、達成度を測る指標値を市民アンケート調査で把握する場合、分かりやすく、かつ、自分事としてとらえることができる設問項目の設定に努めるほか、具体的施策ごとに設定する指標については、戦略の数値目標を達成し、ひいては、将来都市像の実現につながる指標を設定されたい。
3	基盤	五つの戦略を実践するに当たっては、地域住民をはじめ、市内で働く方や活動する方、また、大学生や高校生など、様々な方とのつながりを強め、協働を基盤として取り組むとともに、これからの人口減少対策として、今後は市内外問わず、多様な形で江別市と関わりを保ち続けられる取組を進められたい。

以上